

式 辞（全）

厳しい冬の寒さも和らぎ、波光る鴨の河原辺を吹き渡る風にも春の気配が感じられる、今日の佳き日に、京都府立鴨沂高等学校第70回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、多数の御来賓並びに保護者の皆様の御臨席を賜りましたことは、卒業生はもとより、本校の生徒及び教職員一同にとりまして、この上ない慶びとするところであります。高段からではございますが、心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

ただいま、195名の生徒の皆さんに、高等学校の全ての課程を修了した証として、栄えある卒業証書を授与いたしました。皆さん、卒業おめでとう。保護者の皆様におかれましては、たくましく成長されたお子様の姿に感慨もひとしおのことと拝察いたします。今日に至るまでの並々ならぬ御労苦に敬意を表しますとともに、改めてお祝いを申し上げます。誠におめでとうございます。

今年は、近代の始まりである明治維新から数えて150年、本校が新制高校となって70回目の卒業式という節目に当たります。そして、スクールソングを校歌と改め、約80年ぶりの新校舎完成を迎える年でもあり、皆さんが、本校の歴史の大きな節目に巣立っていくことには感慨深いものがあります。

本校はこの間、伝統復活を目指して学校改革を進めて参りました。そして、皆さんは、学力を伸ばし、部活動や学校行事・地域行事に積極的に取り組む一方で、生活の乱れや問題行動・中途退学がほとんどなくなるなど、これまでの本校の課題を着実に解決し、目覚ましい成果を上げてくれました。最上級生となったこの1年は、確かな学力をつけ、これまで以上に進路実績が飛躍的に向上する見通しとなっています。皆さんは今日の鴨沂改革のパイオニアとも言えるべき存在となり、確かな足跡を刻んでくれました。

理想的な高校生活とは、勉強と部活動を両立させながら仲間との友情を育み、希望する進路目標を達成して卒業することだと思います。その理想を実現するための高校3年間は、決して平坦なものでは無かったと思います。勉強や部活動、自らの生き方や友人関係に悩むなど、幾多の困難があったでしょうが、様々な試練を乗り越え、一人一人が確かな成果をあげ、立派に本校の新たな歴史の節目を飾ってくれました。

しかしながら、皆さんは、入学から卒業までのすべての学校生活を、ここ鞍馬口の仮校舎で過ごすことになりました。建設工事が遅れたために、皆さんを荒神口の新校舎で生活させてあげることができませんでした。このことは大変残念であり、生徒諸君や保護者、同窓生の皆様に、校長として心からお詫びします。

私は、3年前の入学式以来、皆さんに対して、何事にもチャレンジする強い心、自信

と誇り、世のため人のために力を尽くす覚悟を持って欲しいと語り続けてきました。そして、周囲に流されることなく、何が本当で何が正しいのかを自ら判断し、行動してほしいとも言いました。それは、3年間の高校生活の中で鴨沂の精神を実感し、ふさわしい生き方を身に付けて欲しいと願ったからです。

本校の教育方針は、「世界平和を希求し、すべての人々が幸福になりうる社会をめざして、事実に基づいて真理を追究し、それに従って実践しようと努力する人間をつくる。」と定められています。これは、昭和23年の高校創設以来、引き継いできた不変の方針です。本校は、女紅場創立以来、社会や国家の繁栄、世界の平和・幸福に貢献する人間を育成することをその使命として貫いてきた学校であり、このことがまさしく、不易なる鴨沂の精神なのです。

本校を巣立っていく皆さんには、鴨沂の精神を受け継ぐ者として、母校に対する誇りと確かな成長を遂げた自己への自信を持ち、これから出くわすであろう様々な課題や試練に果敢にチャレンジし、たくましく生き抜いてほしいと願います。

それから、もうひとつ、これからのグローバルな社会を生き抜くためのキーワードとして、次の言葉を心に留めておいてほしいと思います。それは、” D I V E R S I T Y & I N C L U S I O N ”。ダイバーシティとは、「多様性」ということです。これからの社会は、人もものも一層多様化していきます。個性豊かで多様な人間同士が、互いの違いを認め合い、支え合い、活かし合い、多様性から価値を見出す組織や社会を形作ることが大切になってきます。どうか、めまぐるしく変化する未来社会において、自らが「幸せに生きる」力を身に付けるとともに、世のため人のために力を尽くせる人間になってください。皆さんの未来に幸多かれと祈ります。

結びに、本日御臨席を賜りました御来賓の皆様、並びに保護者の皆様には重ねて感謝を申し上げます。本校に対しまして、今後なお一層の御支援・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の御健勝と卒業生の皆さんの洋々たる前途を祝し、式辞といたします。

平成30年 3 月 1 日

京都府立鴨沂高等学校

校 長 藤 井 直